



生かされ、生きるチカラ。

取り戻した笑顔の先に 幸せな家族の姿が。

御殿場教会 伊藤友香さん

伊藤友香さんは、幼い頃から家庭の中に自分の居場所がないと感じていた。父は仕事に忙しく、家庭を顧みる余裕がなく短気を起こすことがままあった。母もまた、家事や子育て、仕事に忙しく、娘と向き合う時間をもてなかった。父への恐怖心、母への不信任は、友香さんのトラウマとなって心に影を落とした。結婚して長女が誕生しても、両親との溝は埋まることがなかった。そのようなとき、いつも親身に愚痴を聞いてくれる人から、「すべては自分が選んだこと。人のせいにして逃げてきた。感謝ができていない」と叱責される。動くことができないくらいのショックを受けたが、その言葉の意味を何度も考えるうちに、勝手な思い込みを正当化するために、両親のせいにして逃げてきたのだと気づいた。そして、折りこめて両親に笑顔で「ありがとう」と口にして、自分の気持ちを正直に表すよう努めると、長年のわだかまりは消えていった。いま、さまざまな思いを笑顔に変えた友香さんの目には、幸せな家族の姿が映っている。



笑顔が幸せをつくる

「いつもニコニコしている秘訣は何か」と問われた本会の開祖 庭野日敬は「いつも裸でいるからですよ」と答えました。我がが
 鏡兜よろいかぶとを脱いで裸になる、つまり正直になると、気持ちも楽になります。そうなれば、どのようなときも笑顔でいられる……。それが笑顔の理由の一つのようです。
 とはいえども、笑顔を忘れるほどのつらいことや悲しいこともあったはず。長年、彼と共に活動してきたある人は、「受けがたいさまざまな困難に出合われても、ニコニコとお受けになられた」と語っています。
 庭野にとっては「ニコニコ顔」もまた一つの精進しょうじんであったということでしょう。見方を変えれば、それはつらいできごとをすぐに変え、笑顔の種に変えることができる信仰であり、そこに幸せがあることを身で示していたともいえます。

立正佼成会